

目的ト爲リ得ヘキモノアリテ詐欺罪ヲ構成スルモノナルトキハ之ヲ詐欺罪ニ問擬スルモ擬律ノ錯誤ニ非ス

〔第二百七十八條〕

○上告旨趣書カ相被告辯護人ノ上告趣意書ノ提出前若クハ之ト同時ニ提出セラレタル場合ニ於テハ相被告辯護人ノ論旨ハ之ヲ援用スルヲ得サルモノトス

(同主旨)

○上告論旨ハ各自獨立シテ之ヲ提出スヘキモノナレハ相被告又ハ其辯護人ヨリ將來提出スヘキ上告論旨ノ如キハ之カ引用ヲ許容スルノ限ニ在ラス

○被告ノ辯護人カ相被告辯護人ノ上告理由ヲ援用シタル場合ト雖モ相被告人ニシテ公判前上告ヲ取下ケタルトキハ其理由援用ノ效ハ該取下ト同時ニ消滅シタルモノトス

〔第二百八十七條〕

○起訴ニ係ラサル所爲ニ付テハ之ヲ處罰シタル原判決ヲ破毀スルトキト雖モ特ニ公訴ヲ受理セサル旨ノ言渡ヲ爲スノ要ナキモノトス

第六編 再審

○被告カ第一審判決ニ對シテ控訴ヲ爲シ又其控訴棄却ノ判決ニ服セスシテ上告ヲ申立テ同シク棄却ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テハ再審ノ申立ハ第二審判決ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス從テ第一審判決ニ對シテ之ヲ爲シタルハ不適法ナリ

〔第二百一一條〕

○再犯加重ノ決定ハ本案ニ付キ有罪ヲ言渡シタル確定判決ヲ補充スルモノニ外ナラサレハ右確定判決ニ對シテハ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ

○刑事訴訟法ハ確定判決以外ノ裁判ニ對シ再審ノ訴ヲ許容セサルヲ以テ再犯加重ノ決定ニ對シテハ再審ノ申立ヲ爲スヲ得サルモノトス

○刑事訴訟法第三百一一條第五號ニ所謂訴訟記録ニ錯誤アルトハ過失ニ因リ眞實ニ反スル記載アルヲ謂ヒ記載セラレタル事項其モノカ眞實ニ反スルヲ謂フノ義ニ非ス

第八編 裁判執行

第一章 裁判執行

〔第三百二十條〕

刑事訴訟法 裁判執行 裁判執行

元	四	四	四
一四三	三四三	三四三	二九五

元	四	四	四
一五三	二〇三	二〇〇	二〇七

○ 刑罰ハ有責不法ノ行爲ニ對スル一ノ制裁方法ナレハ原則トシテ之カ受刑資格ヲ犯人ノ一身ニ限ルヘキモノナレトモ法律ハ財産刑ニ關シ之カ例外ヲ設ケ特ニ一種ノ執行方法ヲ規定シタルヲ以テ犯人死亡ノ結果罰金ヲ納付スル能ハサルトキハ其相續人ニ對シテ之カ執行ヲ爲シ得ヘキモノトス

四五

五九七

○ 罰金ハ一ノ財産刑ニシテ裁判確定ヨリ一箇月内ニ之カ完納ヲ爲スヘキモノニシテ縱シ當該官廳ニ於テ之カ分納ヲ許可スルモ开ハ一ノ行政上ノ臨機處分ニ外ナラサレハ之カ爲メニ分納ノ權利ヲ獲得スヘキモノニ非ス從テ從來ノ慣例ヲ主張シテ右檢事ノ命令ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

四五

五九七

【第三百二十二條】

○ 刑事訴訟法上刑ノ言渡以外ノ場合ニ於テ疑義ノ申立ヲ許シタル規定ナシ從テ訴訟費用ノミニ關スル疑義ノ申立ハ不法ナリトス

四五

七

譜
法
令

刑法施行法

(第三條)

〔第三條〕

○官文書偽造行使罪及ヒ森林竊盜幫助罪ヲ犯シタル場合ニ犯罪時法ノ適用トシテ右犯罪ノ刑ヲ併科スヘキモノナルトキハ其中ノ重キ刑ヲ以テ對照刑ト爲スヘキモノナルヲ以テ中間法適用ノ結果重キ一罪ノミニ依リ處斷スヘキトキト雖モ犯罪時法ト中間法トハ其刑同一ナルカ故ニ犯罪時法ニ從テ之ヲ處斷スヘキモノトス

(第九條)

〔第九條〕

○刑法施行前ニ犯シタル數罪ト其施行後ニ犯シタル數罪トニ付キ同時ニ判決ヲ爲ス場合ニ於テ前者ニ對シ舊刑法ノ規定ヲ適用スヘキトキハ刑法施行法第九條ノ明文アルカ爲メ舊刑法第七十條第二項ハ之ヲ適用シ得サルモノトス

(第十三條)

〔第十三條〕

○舊刑法施行當時ニ於テ罰金納付ノ義務確定シタル者ト雖モ其當時死亡

刑法施行法

○セハ格別分納ノ許可ヲ得新刑法實施後尙ホ其支配ノ下ニ納付義務履行中死亡シタルモノナルトキハ刑法施行法第十三條ノ旨趣ニ從ヒ其後ノ履行ニ關シテハ新法ノ規定ニ準由スヘキモノトス

(第二十一條)

『第二十一條』

○特別法ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シ酌量減輕ヲ爲スヘキ場合ト雖モ刑法施行法第二十一條ニ從ヒ舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノトス

(參照)

舊刑法第二百三十四條ヲ援用シテ定メタル市町村會議員選舉罰則第五條ノ刑ハ刑法施行法第二十一條ニ所謂他ノ法律ニ定メタル刑ニ該當スルヲ以テ該法條ノ刑ヲ加減スル場合ニ於テハ舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノトス

市町村會議員選舉罰則違反ノ場合ニ援用セラルル舊刑法第二百三十四條ノ刑ハ右選舉罰則違反ノ刑ニ外ナラサルヲ以テ刑法施行法ニ所謂他ノ法律ニ定メタル刑ニ該當ス從テ之ヲ加減スヘキ場合ニハ刑法施行法第二十一條ニ依リ舊刑法ノ加減例ニ依ラサルヘカラス

(第二十九條)

『第二十九條』

○刑法施行法第二十九條ニ所謂短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪トハ現ニ犯人ニ科スヘキ法定刑ノ短期カ一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ヲ謂フモノナレハ罪質ハ短期一年以上ノ懲役ニ該ルモ刑法第六

四五

五九七

四四

一三七

四四

七〇七

四四

一〇九二

十五條第二項ニ依リ短期一月以上ノ懲役ニ處スヘキ場合ニ在リテハ他ノ法律ノ適用ニ付キ之ヲ舊刑法ノ重罪ト看做スヘキモノニ非ス

四五

七八三

(第六十一條)

『第六十一條』

○贓物ノ還給ハ民法上ノ請求權ヲ基礎トスル原狀回復ノ方法ニ過キサルヲ以テ贓物授受ニ關スル當事者間ノ民法上ノ關係如何ヲ判示セサルニ於テハ直ニ其物件ヲ被害者ニ還付スヘキヤ否ヤヲ判斷スルニ由ナキモノナルヲ以テ不法ナリトス

四五

一〇〇六

(第六十三條)

『第六十三條』

○刑法施行法第六十三條ニ所謂出頭トハ裁判所ノミニ限ラス臨檢其他何レノ場所ニテモ裁判所ノ取調ヲ受クルノ義ナリトス

四四

五〇二

(第六十七條)

『第六十七條』

○贈賄ト收賄トハ相互ニ不可分の關係ヲ有スルモノニシテ刑法施行法第六十七條ニ所謂共犯ナリトス

四五

一五三

(同主旨)

賄賂ノ授受アリタル場合ニハ贈賄行爲ト收賄行爲トハ不可分の關係ヲ有スルモノナルヲ以テ刑法施行法第六十七條ニ所謂共犯ナリトス

四四

八七九

衆議院議員選舉法

〔第八十七條〕

○衆議院議員選舉法ニ所謂選舉運動者トハ議員候補者ノ爲メニ投票ヲ得セシムル目的ヲ以テ選舉有權者ヲ勸誘スル諸般ノ行爲ヲ爲ス者ヲ指稱スルモノトス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ニ選舉運動者ニ對スル金錢ノ供與トハ選舉運動ノ報酬トシテ選舉運動者ニ金錢ヲ供與スルヲ謂フモノナルヲ以テ選舉運動者ニ投票買收費ヲ寄託スルカ如キハ選舉運動ノ報酬トシテ選舉運動者ニ金錢ヲ供與シタルモノト云フヘカラス

同主旨判例三五年三一卷三三頁

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第二號ニ「人」トアルハ選舉有權者又ハ運動者ノミニ限局スルコトナク汎ク其他ノ人ヲモ包含指稱スルモノト解スルヲ相當トス

○衆議院議員選舉法第八十七條第二號ニ所謂響應トハ選舉ニ關シテ飲食物ノ供與ニ因リ他人ヲ款待スル謂ナレハ選舉運動者ニ對シ其選舉運動ニ付キ必要ナル飲食物ヲ供與スルコトハ同號ノ所謂響應ナル觀念中ニ包含セサルモノトス

元	元	元	元
二九二	二九二	三〇〇	二九二
二九二			

○衆議院議員候補者タル人ノ依頼ニ因リ選舉有權者等ノ集會ニ於テ之ヲ推選スヘキ旨ヲ演述シ其勞ニ對シテ右候補者一派ノ有志者カ供與シタル酒食ノ響應ヲ受ケタルトキハ衆議院議員選舉法第八十七條第一項第二號ニ所謂選舉ニ關シテ響應ヲ受ケタルモノニ該當スルモノトス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第三號末文ニハ單ニ其他利害ノ關係トノミ規定シアリテ其利害ノ關係ニ付キ何等ノ制限ヲ設ケサルヲ以テ苟モ選舉ニ關シ選舉人ノ利害ニ關スルモノハ其何タルヲ問ハス總テ之ヲ包含スルモノト解スルヲ相當トス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第三號ノ規定ニ違背シ單一ノ行爲ヲ以テ同時同所ニ於テ二名ノ選舉權ヲ有スル者ヲ誘導シタル場合ハ單一ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非ス一行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナリトス

〔第八十八條〕

○衆議院議員選舉法第八十八條第一號ノ拐引罪ハ選舉ニ際シ選舉人ヲ誑惑シテ其現在地ヨリ他所ニ誘引スルニ因リテ成立スルモノニシテ其自由意思ヲ羈束シテ同行ヲ強要シ又ハ選舉權ノ行使ヲ妨害スルコトハ同罪ノ構成要件ニ非ス

元	元	元	元
二九二	二九二	三〇〇	二九二
二九二			
四五			
五〇四			

貴族院多額納稅者議員互選規則

○貴族院多額納稅者議員互選規則ニ依レハ互選人ハ他人ニ委任シテ該議員ノ選舉ヲ爲スコトヲ得サルモノナレハ其選舉委任ノ委任狀ハ法律上代理權限ヲ發生シ能ハサルモノナリト雖モ尙ホ事實證明ノ用ニ供シ得ラルヘキ文書ナリトス

裁判所構成法

『第二十五條』

○豫審判事差支ノ爲メ事件ヲ取扱フコトヲ得サル場合ニハ地方裁判所長ハ他ノ判事ニ其代理ヲ命スルコトヲ得ルモノトス

『第二十六條』

○裁判長タルヘキ者差支アリタル場合ニ於テ其部ヲ構成スヘキ判事中ノ上席者ニ非サレハ之カ代理ヲ爲スコトヲ得ストノ法規ナキヲ以テ構成員タル次席判事カ裁判長ト爲リ審判シタリトスルモ不法ニ非ス

『第四十八條』

○詐欺ノ目的ヲ以テ一定ノ手段ヲ用キ各別ニ多數人ヲ欺罔シ金圓ヲ交付

四五	四〇五
四四	二二七
四四	一六九

〔第二十五條〕
同主旨判
例二九年
四卷九一
頁

〔第四十八條〕

セシメタル事件ニ付キ右行爲ハ各被害者ニ付キ獨立ノ詐欺罪成立スヘキヲ以テ連續犯ニ非スシテ併合罪ナリト判示シ破毀移送ヲ爲シタリ其後連續犯ニ關スル意見ハ變更セラレタリト雖モ之カ爲メニ本件ニ付キ下級裁判所ヲ羈束スル效力ヲ喪失スヘキニ非ス

○移送ヲ受ケタル裁判所カ如上ノ事實ヲ認メ乍ラ連續犯ヲ以テ之ヲ論シ各被害者ノ被害程度ヲ各別ニ判示セサリシハ裁判所構成法第四十八條ニ違背シタル不法アリト雖モ該判決ヲ批難シ併合罪ヲ以テ論スヘキモノト主張スルハ被告ニ不利益ナル論旨ナルヲ以テ上告趣意トシテハ適法ナラス

『第一百五條』

○豫審調書ニ於ケル證人ノ供述記載中ニMナル語辭アリトスルモMハ金錢ノ意義トシテ輒近普通ニ使用セラルル英語(マネー)ノ頭字ニシテ一種ノ符號ナリト視ルヘキモノナレハ之ヲ以テ外國語ヲ使用シタル違法アリト云フヲ得ス

元	一四三七
四四	一〇五

民法

『第四十四條』

民法

商法

〔第七十條〕

○株式會社ノ取締役ハ會社ノ目的タル營業ノ範圍ニ於テノミ一切ノ裁判
上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモノナルカ故ニ右權限外ノ行
爲ニ付テハ會社ノ人格ヲ代表スルコトヲ得サルモノトス

〔第七十七條〕

○會社ノ營業ノ範圍ニ屬セサル行爲ノ實行カ縱令會社ノ利益ニ歸スヘク
而モ會社ノ存立ヲ保護スルニ必要ナリトスルモ又株主總會ノ議決ニ因
リタルモノトスルモ將タ又後日株主總會ノ承認ヲ經タルモノナリトス
ルモ仍ホ之ヲ以テ取締役カ會社ノ代表機關トシテ爲シタル行爲ナリト
云フヘカラス

○株主總會カ會社ノ資産ヲ會社ノ營業範圍ニ屬セサル事項ニ使用スルコ
トヲ議決スルモ全然違法ニシテ議決トシテ效力ナキモノナレハ其議決
ノ執行トシテ右資産ヲ不法ノ用途ニ費消シタル取締役ハ株主總會ノ議
決ニ藉口シテ其責ヲ免ルルヲ得ス

第三編 第八章 運送營業 第一節 物品運送

四五

一〇九

四五

一〇九

四五

一〇九

〔第三百七十九條〕

○荷爲替ハ運送品ノ荷主カ荷受人ヲ支拂人ト爲シタル爲替手形ヲ振出シ
テ其受人ヨリ手形面ノ金額ヲ受取り荷受人カ爲替金ヲ支拂ハサル場
合ノ擔保トシテ運送品ヲ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充當スルノ權利
ヲ債權者タル受人ニ付與シ同時ニ貨物引換證ヲ債權者ニ交付スルニ
因リ成立スル行爲ニシテ其擔保ハ動産質ノ性質ヲ有スルモノトス

四四

六三

〔第三百七十九條〕

○倉庫營業者ハ受寄物ニ付キ質入證券ノ所持人タル質權者ニ對シテ保管
ノ義務ヲ負フモノナレハ寄託者カ寄託物ノ返還ヲ請求スルモ質入證券
ト引換ニ非サル以上ハ出庫處分ヲ爲スヲ得サルモノトス

四四

二三二

〔第五百二十九條〕

○手形債務ノ支拂ヲ保證スル爲メ振出シタル約束手形ハ從タル手形債務
ナルヲ以テ債權者ニ於テ主タル手形債務ノ支拂ヲ受ケタルトキハ右保
證手形ハ無効ニ歸スヘキモノトス

四四

二〇四

民事訴訟法

〔第六百一條〕

○債權轉付命令ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達スルニ非サレハ完全

〔第六百一條〕

民事訴訟法

ニ其效力ヲ發生セサルモノトス

競賣法

四

七九

○競賣ハ權利ノ實行方法ニ外ナラサレハ縱令競賣手續カ競賣法上適法ニ完結スルモ其結果タル所有權移轉ノ實體上ノ效力ハ之ニ依リテ確定スルモノニ非ス

四

二六五

○競賣ニ依リ實行セラレタル抵當權ニシテ實體上無効ノモノナルトキハ本來ノ所有者ハ競賣手續完結後ニ於テモ尙ホ競落ニ因ル所有權移轉ノ效力ヲ爭ヒ以テ自己ノ權利ヲ主張スルコトヲ得而シテ該所有者カ競賣手續ノ開始ヲ知り乍ラ其繼續中抗告又ハ異議ニ依リ抵當權ノ無効ヲ主張シタルト否トハ問フ所ニ非ス

四

二六五

戶籍法

○身分ニ關スル届書ニハ届出人ノ署名ヲ要スルコト明白ニシテ所謂署名トハ本人ノ自署ヲ指稱スルモノナレハ戶籍吏カ届出人ノ記名ヲ其自署ニ非スト認メタルトキハ其届書ヲ受理セサルヲ當然トス

四

五三三

不動産登記法

○抵當權ノ設定登記ヲ經タル後所有權者カ不法ニ其登記抹消ノ手續ヲ爲シタルトキハ縱令其後ニ於テ所有權ヲ他人ニ移轉スルモ仍ホ不法ニ登記ヲ抹消シタル當時ノ所有權者トシテ登記回復ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

四

一五四

行政法

○自治團體ノ代表機關タル町村長カ其職務ノ執行上他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ法律ニ於テ特ニ規定スル場合ノ外其責ニ任スヘキモノニ非ス

四

一三六

府縣制

○縣會議員ノ選舉ニ際シ候補者ノ當選ヲ妨クル目的ヲ以テ新聞紙ヲ利用シ選舉妨害ノ目的ヲ遂ケタル以上ハ右候補者ノ當選スルト否トハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ボササルモノトス

四

二六一

○縣會議員ノ資格ハ當選ノ效力ニ因リ取得スルモノナレハ其任期ノ起算點ハ承諾ノ申立ヲ竣テ始マルモノニ非ス唯之ヲ辭シ又ハ之ヲ辭シタルモノト看做スヘキ場合ニ於テ當選ハ其效力ヲ解除セララルニ過キス

四

五六一

郡制

○市町村會議員選舉罰則ハ市制及ヒ町村制ノ改正ニ因リ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用セサルヘカラサルヲ以テ從テ郡會議員ノ選舉ニ付テモ亦自ラ處罰規定ノ變更ヲ來シ明治四十四年十月一日以後ハ郡制第二十八條ニ依リ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用セサルヘカラス

四五

一四一

市制

○市制第四十條第一項ニ依リ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用スルハ市會議員選舉ノ如キ公民力議員ヲ選舉スル場合ニ限ルモノニシテ市會ニ於テ市參事會員ヲ選舉スル場合ニ準用スヘキモノニ非ス

四五

八三

(參照)

市會ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ市ニ關スル一切ノ事件ヲ議決スヘキモノニシテ舊市制第三十一條ハ其議決事件ニ付キ別ニ制限スル所ナキヲ以テ土地建物ノ賃貸ニ關スル事件ハ同條ノ規定ニ準據シ議決スヘキモノトス

四

一八九一

議案カ純然タル民法上ノ契約ニ關スル事項トシテ市會ニ提出セラレタル場合ト雖モ市會議員ハ該議案カ市會ノ議ニ付セラルヘキモノナルヤ否ヤニ付キ之ヲ審議スルノ職責アルモノナレハ議案ノ原因タル契約其モノカ元來市ノ爲ス能ハサル性質ヲ有シ又其契約ヲ爲スニ付キ成規

ノ手續ヲ履踐セサル等ノ事アリトスルモ之ヲ以テ其議案ニ付キ何等職務權限ナキモノト云フヲ得ス

四四

一八九二

市ニ屬スル道路ハ市ノ設置ニ係ル一ノ營造物ニシテ市モ亦一私人ト同シク民法上法律行為ヲ爲シ得ヘキモノナレハ該營造物ノ上ニ電氣軌道ヲ敷設セントスル者アルトキハ之ト報償契約ヲ締結シ得ヘキハ當然ナリトス

四四

一八九一

町村制

○村長カ個人ノ委託ヲ受ケテ保管スル國庫債券又ハ其償還金ヲ擅ニ公用ニ費消シ該費消金額ヲ以テ直ニ委託者ノ納税金ニ充當スルハ法律ノ許容セサル所ナリ

元

一四三

(參照)

村ノ教育蓄積金ハ町村制第六十八條第四號ニ所謂村有ノ財産ナリトス從テ村長ハ職務上之ヲ保管占有スヘキ權限アリ

四四

一七

村會ニ於テ村有財産ノ一部ヲ特定シ翌年度ヨリ之ヲ村ノ教育蓄積金ニ編入スルコトヲ決議シタル以上ハ其特定財産ハ前年度歲入出決算ノ有無ニ拘ハラズ翌年度ノ始ヨリ當然村ノ教育蓄積金タル性質ヲ具備スヘキモノトス

四四

一四

村長ハ村ノ設置ニ係ル里道ヲ管理シ若クハ之ヲ監督スルノ權アリ

四四

一七

町村收入役力受領シタル町村ノ收入ハ一切收入役ノ占有ニ屬スヘキモノニシテ町村長ハ之ヲ占有スルノ權限ナシ

四四

四〇五

市町村會議員選舉罰則

二〇二

町村ノ費用トシテ工事請負人ニ支拂フヘキ現金ニ付テハ町村長ハ唯其支拂ヲ命令スルノ職務アルニ止マリ之ヲ保管スル職務ヲ有セス

町村ニ於ケル區ノ出納及ヒ會計ノ事務ハ町村長ノ管理事務ト分別シ町村收入役ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘキコトハ町村制第百十五條末段ノ旨趣ナリトス

收入役ノ臨時代理ナルモノハ町村制ノ認ムル町村吏員ナリ而シテ其職務權限ハ收入役ト同一ニシテ町村ノ收入ヲ保管スヘキ職責ヲ有スルモノトス

郡長在職者ヲ以テ町村組合ノ管理者ト爲スコトハ法律ノ禁スル所ニ非サルヲ以テ組合カ舊町村制第百十七條第一項ニ依リ組合事務ノ管理方法トシテ右在職者ニ之ヲ管理ヲ委託スル旨ノ規定ヲ設ケルトキハ郡長ハ一個人トシテ之ヲ承諾スルニ因リ該組合ノ管理者タル資格ヲ取得シ得ヘキモノトス

村會ノ起債決議ニ基キ村債トシテ金額ヲ受領スルハ村收入ノ受領ニ關スル事項ナルヲ以テ村收入役ノ職務ニ屬シ村長ノ職務ニ屬セス

町村吏員ノ選舉ニシテ舊町村制第四十六條ノ規定ニ違背シタル不法アリトスルモ其選舉ハ町村會カ其權限ヲ越エテ議決シタルモノニシテ法律命令ニ背キタルニ外ナラサレハ相當手續ヲ踐行スルニ非サル以上右選舉ハ無効ニ歸スルコトナシ

市町村會議員選舉罰則

(參照)

村會議員選舉ニ付キ選舉掛ノ投票點檢中多衆共同シテ選舉會場ヲ騷擾セシメタル所爲ハ市町村會議員選舉罰則第九條第一項ノ犯罪ヲ構成ス

四	四	四	四	四	元	四
四九〇	八〇六	一三九	六四	六五	一五四	一三七

村會議員ノ選舉人ニ對シ或候補者ニ投票セハ酒食ヲ饗應スヘキコトヲ約束シタル行爲ハ市町村會議員選舉罰則第二條第一項ノ所謂投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシムル目的ヲ以テ物品ヲ選舉人ニ授與スルコトヲ約束シタルモノナリトス

數名ノ村會議員選舉人ニ對シ酒食ヲ饗應スヘキコトヲ約束シタルトキハ其各所爲ヲ包括シテ一箇ノ法益ヲ侵害シタルモノト爲ササルヘカラス

村會議員選舉ノ際有權者タル債務者若クハ小作人ニ對シ自己ノ指定シタル者ヲ選舉セサルニ於テハ財産上ノ利益ヲ來スヘキ旨ヲ暗示シ若クハ其自由ヲ拘束シ止メテ歸宅セサラシメタル行爲ハ市町村會議員選舉罰則第七條ニ所謂脅逼行爲ナリトス

市町村會議員選舉罰則第五條ハ賄賂ノ授與又ハ約束ヲ爲シ選舉人ヲシテ投票ヲ爲サシメタル者ハ勿論其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル選舉人ヲモ處罰スルノ旨趣ナリトス

水利組合法

○村收入役ハ法律上水利組合費ヲ徵收保管スヘキ職務ヲ有スルモノナルヲ以テ判決ニ於テ收入役カ右水利組合ノ種類ニ屬スル普通水利組合費及ヒ水害豫防組合費ヲ保管スルモノト認ムルモ不法ニ非ス

治安警察法

○治安警察法第九條第二項ニ所謂賞恤トハ賞揚憐恤ノ意義ニシテ犯罪人

水利組合法 治安警察法

一一〇三

四	四	四	四	四
三九〇	三九四	一二九	五四八	五四八

トハ其者ノ死亡シタルト否トヲ問ハス刑ノ執行ヲ終了シタルト否トヲ論セス汎ク確定判決ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ指稱スルモノトス

二〇四

銃砲火藥類取締法

○爆發物ノ製造ト爆發物ノ所持トハ全然觀念ヲ異ニスル事項ナルヲ以テ其製造ヲ目スルニ所持ヲ以テスルヲ得サルト同シク所持ヲ目スルニ製造ヲ以テスルヲ許サス

四五

五〇

新聞紙法

○新聞紙法ニ所謂著作物トハ著作者ノ思索考量ニ依リ案出シタル著述ノミヲ指示セルモノニ非スシテ時事其他ノ報道ヲモ包含スルモノトス
○法人タル會社ハ新聞紙ノ印刷人又ハ發行人ト爲ルコトヲ得ス故ニ會社ノ法定代理人タル業務執行者カ新聞紙法第十二條ニ違反シテ新聞紙ヲ印刷發行シタルトキハ業務執行者一己ノ行爲トシテ之ヲ處罰スヘキモノトス

四四

一七五

○我 皇室ハ萬世不易一アリテ二ナク古今ノ別ナシ
○苟モ皇室ニ關スル事實ヲ新聞紙上ニ掲載スルニ當リ妄ニ淫靡卑猥ノ言

辭ヲ弄シ且ノ不敬ノ評語ヲ加ヘタルトキハ縱令其記事ハ歷史上ノ事蹟ニシテ史傳ニ編述シアルモノヲ假來リタルニ過キサル場合ト雖モ新聞紙法第四十二條ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

四四

一七二

○皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆セントスル事項ヲ新聞紙ニ掲載發行シタル所爲ハ新聞紙法第四十二條違反ノ既遂罪ナリトス從テ本罪ノ成立ニハ必スシモ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シタル事項ヲ新聞紙ニ掲載スルコトヲ要セス

四四

一八一

○新聞紙法第四十二條上段ノ犯罪ハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆セントスル事項ナルコトヲ知リ乍ラ之ヲ新聞紙ニ掲載發行スルニ因リテ成立シ犯人ニ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スルノ意思アルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス

四四

一八一

○陽ニハ紳士閱乃至社會主義ノ爲メニ均シク言ヲ建ツルカ如クナルモ陰ニ後者ニ同情シタルノ記事ハ現時ノ我國家組織ヲ破壞シ國家統治權主體ノ存在ヲモ否認スルコトヲ懲慝スルモノニシテ新聞紙法第四十二條ニ所謂朝憲ヲ紊亂セントスルノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルモノニ該當ス

四四

一四六

○二人互ニ共謀シテ新聞紙ヲ發行センコトヲ企テ制規ノ届出ヲ爲サス又保證金ヲ納付セスシテ新聞紙ヲ印刷配布シタルトキハ縱令兩名カ發行兼編輯人タル名義ヲ表ハササルモ其一名ノ名義ヲ表示シタル以上其行

爲ハ共謀者一體ノ行爲ナルヲ以テ共ニ其責ヲ免ルヘキモノニ非ス
 ○新聞紙ニ掲載シタル事項ニシテ安寧秩序ヲ紊亂スルモノナル以上ハ其
 掲載ノ目的如何ニ拘ハラズ其自體ニ於テ害惡ヲ生スルモノナルヲ以テ
 縦令之ヲ他ノ新聞紙ヨリ轉載シ且其新聞紙ヲ論評詰責スルノ目的ヲ以
 テシタリトスルモ其責任ヲ免ルヘキモノニ非ス

○新聞紙法第四十四條ハ同一被告人ニ對スル併合罪ニ關スル規定ナレハ
 一人ニテ新聞紙ノ發行人及ヒ編輯人タル兩資格ニ於テ處罰セラルヘキ
 場合ニ於テモ亦數罪ヲ犯シタルモノトシテ右法條ノ適用ヲ受クヘキモ
 ノトス

○新聞紙法第十九條ニ違背スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタル場合ニ於テ檢
 事ハ何人ニ對シ之カ差止ノ通知ヲ爲スヘキヤハ明文ナシト雖モ新聞紙
 ノ發行ハ發行人ニ於テ之ヲ爲スノミナラス新聞紙掲載事項ノ種類時事
 ニ關スル事項ノ有無編輯人ノ氏名年齢等ハ發行人之ヲ届出テ且編輯人
 ノ變更等亦發行人ニ於テ之ヲ届出ツヘキモノナルヲ以テ右差止ハ之ヲ
 發行人(又ハ其代理人)ニ通知スルニ因リ效力ヲ生スルモノト解釋スル
 ヲ正當トス

○右通知ノ方法ニ關シテハ法律上別段ノ規定ナキヲ以テ檢事ハ如何ナル

同主官判
 例四三年
 八三六頁

四四
 一〇三五

四四
 一三三四

四四
 一三三四

四四
 一三七三

方法ニ依リテ之ヲ爲スモ妨ナシ從テ警察官ヲ經由シテ之ヲ通知スルモ
 違法ニ非ス

○如上ノ方法ニ依ル檢事ノ差止アリタルニ拘ハラズ編輯人カ之ヲ掲載シ
 タルトキハ同法第十九條第三十六條ニ該當スル犯罪ヲ構成シ編輯人ニ
 於テ其差止ヲ認識シタルト否トヲ問フコトナシ

○編輯人ニ非スシテ實際編輯ヲ擔當シ檢事ノ差止メタル事項ヲ掲載スル
 ニ於テハ亦編輯人ト同一ニ之ヲ論セサルヘカラス

○苟モ受訴裁判所カ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル虞アルモノトシテ公開ヲ
 停止シタル以上ハ其辯論ノ内容ノミナラス其辯論ノ進行ニ關スル一切
 ノ事項ヲモ新聞紙ニ掲載スルコトヲ許サス而シテ受訴裁判所以外ノ者
 ノ意見ニ於テ斯ノ如キ虞ナキモノト認ムルト否トハ右公開停止ノ效力
 ヲ左右スルモノニ非ス

○北海新聞カ裁判ヲ以テ發行ヲ禁止セラレタル後同編輯人カ北海ナル新
 聞紙ヲ編輯發行シタル場合ニ於テ右兩新聞紙カ同一新聞紙ナリヤ否ヤ
 ハ裁判所カ職權ヲ以テ定ムヘキ事實問題ノ範圍ニ屬スルモノトス
 ○新聞紙所載事項ノ錯誤ニ關シ新聞紙法第十七條第一項所定ノ者ヨリ正
 誤書辯駁書等ノ掲載方請求アリタル場合ニハ其之ヲ受ケタル後次回又

四四
 一三七三

四四
 一三七三

四四
 一三七三

四四
 一三七三

四四
 一四二九

ハ遅クトモ第三回發行ノ新聞紙上ニ其正誤書辯駁書等ノ記事全部ノ掲載ヲ完了スヘク次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ之カ掲載ヲ始ムルヲ以テ足レリト爲スヘキモノニ非ス

四五

一八〇三

國稅徵收法

○土地ニ對スル虛偽ノ移轉登記ヲ爲シ以テ差押處分ヲ免レントシタル行爲ハ國稅徵收法第三十二條ニ所謂財產ノ藏匿脫漏ニ該當スルモノトス
○荷モ税金ノ徵收ヲ免ルルノ目的ヲ以テ債務ノ辨濟ニ代ヘ債權ヲ讓渡シタル行爲ハ國稅徵收法第三十二條第一項ニ所謂財產ヲ脫漏シタルモノニ該當ス

四五

四八二

四五

八四九

關稅法

○貨物ノ輸入ハ貨物ヲ船舶ヨリ我國内ニ陸揚スルヲ謂ヒ貨物ヲ積載シタル船舶カ我港内ニ入ルモ未タ陸揚ヲ爲ササルトキハ之ヲ以テ貨物ノ輸入アリタルモノト云フヲ得ス

四五

四六

○關稅法第八十三條ニ因ル追徵ノ言渡ハ犯則當時ノ貨物所有者ニ對シテノミ爲スヘキモノニ非スシテ其貨物ニ關スル各犯則者ニ對シテ之ヲ爲

スヘキ法意ナリトス

○關稅法違犯者ニ對スル告發ハ關稅法ノ規定ニ依リ稅關長之ヲ爲スノ職權ヲ有スルモノナレハ其告發書ノ如キモ亦刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作成スルヲ要セス

四五

四二六

四五

九一八

(參照)

關稅法第八十三條ノ舊規定ハ數多ノ犯則者アル場合ニ各犯則者間ニ連帶關係ヲ有セシムル法意ニ非スシテ各犯則者ヲシテ獨立シテ同條所定ノ價格全部ヲ納付セシムル法意ナリトス然レトモ若シ犯則者中ノ或者カ其全部若クハ幾部ヲ納付シタルトキハ納付濟ノ部分ニ付テハ更ニ追徵ヲ爲スコトヲ得ス

四五

四二六

酒精及酒精含有飲料稅法

○酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ノ適用ヲ受クヘキ者ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シ若クハ之ヲ販賣スルモノナラサルヘカラス從テ麥酒又ハ酒造稅法ニ所謂酒類ヲ製造スル者若クハ之ヲ販賣スル者ノ雇人ニシテ雇主ノ業務ニ關シ酒精及酒精含有飲料稅法ヲ犯スコトアルモ雇主ニ對シ同法條ヲ適用スルヲ得ス

四四

一三四

砂糖消費稅法

酒精及酒精含有飲料稅法 砂糖消費稅法

○砂糖消費税法ノ規定ハ各種類毎ニ申告ヲ爲サシムル旨趣ナルカ故ニ政府ニ申告セスシテ種類ノ異ナリタル砂糖ト糖蜜トヲ製造スルハ即チ二箇ノ法益ヲ侵害スルモノナリトス

四五

六七〇

○砂糖消費税法第八條ニ所謂砂糖糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者トハ政府ニ申告シタルト否トヲ問ハス汎ク其製造ニ従事スル者ヲ指稱スルモノトス

四五

六七〇

煙草專賣法

○煙草專賣法第二十二條ハ煙草元賣捌人ニ非サレハ煙草ヲ煙草小賣人ニ販賣スルコトヲ得ス又煙草小賣人ニ非サレハ煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得サルノ旨趣ナリトス從テ煙草小賣人カ煙草ヲ其同業者ニ販賣スルニ於テハ同法第四十九條ニ所謂煙草賣捌人ニ非スシテ製造煙草ヲ販賣シタル者ニ該當スルモノトス

四

二九〇

○煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人等ヲシテ其代理人、戶主、家族、同居者、雇人其他ノ從業者カ爲シタル犯罪行爲ニ付キ罪責ヲ負ハシムルニハ此等ノ者カ其業務ニ關シ煙草專賣法若クハ同法ニ基キテ發セラルル命令ニ違反シタルコトヲ要スルノミニシテ該法令中煙草耕作者、試作者、煙

同主旨判
例四二一
七九二頁

草賣捌人等ヲ以テ犯罪ノ主體ト爲シタル條項ニ違反シタルコトヲ要セス

四

一七三七

○煙草元賣捌人タルト煙草小賣人タルトヲ問ハス苟モ煙草賣捌人タル者ノ業務ヲ執行スルニ當リ其從業者ニ於テ煙草販賣ニ關スル煙草專賣法第二十二條違反ノ行爲アリタルトキハ同法第六十五條ニ依リ煙草賣捌人ハ同法第二十二條第四十九條ノ罪責ヲ辭スルヲ得ス

四

一七三七

○煙草賣捌人ニモ非ス又煙草小賣人ニモ非スシテ煙草小賣人及ヒ消費者ニ製造煙草ヲ販賣シタル行爲ハ二箇ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非スシテ煙草專賣法第四十九條ニ所謂煙草賣捌人ニ非スシテ製造煙草ヲ販賣シタル一箇ノ犯罪行爲ナリトス從テ之ニ對シ同法條所定ノ一箇ノ刑罰ニ處スルヲ相當トス

四

二〇八〇

○沒收ハ附加刑ナルヲ以テ其主刑ヲ科セラルヘキ罪ニ付キ處斷セラルル總テノ犯人ニ對シ之ヲ言渡スヘキヲ通則トス而シテ煙草專賣法ニ關シ特ニ例外ヲ認ムヘキ理由存セサルヲ以テ同法第四十九條ニ依リ犯罪ニ係ル製造煙草ヲ沒收センニハ其煙草カ共犯者中ノ一人ニ屬スルヲ以テ足ルモノトス

四

二三〇六

○購買組合ハ社團法人ナルヲ以テ煙草小賣人タルノ指定ヲ受クルコトナ

ク政府ノ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ組合員ニ賣却シタルトキハ煙草專賣法第二十二條第一項ニ違背スルモノトス

四五

五九三

○煙草專賣法中從犯ニ關スル刑法ノ總則ヲ排除スル規定ナキヲ以テ刑法ノ總則ニ從ヒ專賣法所定ノ犯罪行爲ニ付キ從犯ヲ認ムルコトヲ妨ケス
○苟モ煙草專賣法違犯ノ行爲ニ干與シタル者ハ正犯タルト從犯タルトヲ論セス又犯罪ニ係ル物件ノ所有者ナルト否トヲ問ハス之ヲシテ沒收スルコトヲ得サル物件ノ價格ニ相當スル金額ニ付キ追徵ヲ受ケシムヘキモノトス

元

一四八四

元

一四八四

○政府ノ指定ヲ受ケタル煙草賣捌人ト雖モ自己ノ業務行爲ニ非スシテ自己ノ資格ヲ犯罪行爲ヲ幫助スル手段ニ供スル場合ニ於テハ當然該犯則行爲ノ從犯トシテ處罰ヲ受クヘキモノトス

元

一四八四

間接國稅犯則者處分法

○間接國稅犯則者處分法第八條ハ當該官吏カ現ニ所屬官廳内ニ存在セル物品ヲ押收スル場合ニハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

四

六

○收稅官吏カ臨檢顛末書ノ記載ヲ立會人ニ示シ其名下ニ拇印ヲ爲サシメタル以上ハ縱合同人無筆ナルモ其記載事項ハ之ヲ承諾シタルコトヲ認

メ得ヘケレハ右ノ記載ヲ讀聞ケサルモ之ヲ以テ違法ナリト云フヲ得ス

四

五九五

郵便法

○郵便法第五十一條ノ犯罪ハ郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊取スルコトニ因リテ成立スルモノナレハ該犯罪ノ目的物ハ犯人ノ保管ニ屬セサル郵便物タルヲ要スルモノトス

四

二二三

○郵便事務ニ從事スル者カ自己ノ職務上保管スル郵便物ヲ不法ニ自己ノ物トシテ處分シタルトキハ刑法第二百五十三條ノ横領罪ヲ構成スルモ郵便法第五十一條ニ依リ處斷スヘキ限ニ在ラス

四

二二三

郵便貯金規則

○郵便貯金ニ付キ再度通帳ヲ發シタル場合ニハ原通帳ハ無効ニ歸スルモノトス而シテ詐欺ニ基キ再度下付ヲ受ケタル通帳ノ有效ナルト否トハ此結果ヲ左右スヘキモノニ非ス

元

一四〇一

移民保護法

○移民保護法第十四條ノ規定ハ移民取扱人ハ其業務ニ關シ公認手数料ノ

外移民等ヨリ金錢其他一切ノ物品ヲ受取ルコトヲ得サルノ旨趣ニシテ其受取リタル金錢カ自己ノ爲メニスルモノナルト會社ノ爲メニスルモノナルト將タ事實當該移民ノ爲メニ使用セララルルモノナルト否トハ固ヨリ之ヲ問フノ要ナキモノトス

○移民保護法違犯罪ニ於ケル法益ハ移民者各人ノ財產權其モノニ非スシテ行政法規ニ依リ維持セントスル風紀夫レ自體ニ外ナラサレハ縱令移民取扱人カ移民者各人ヨリ數次ニ金圓ノ交付ヲ受クルモ苟モ繼續ノ意思ニ基クモノナル以上ハ該行爲ハ直ニ刑法第五十五條ヲ適用シ之ヲ一罪トシテ處分スヘキモノトス

醫師法

○苟モ自己ノ常業ト爲スノ目的ヲ以テ免許ヲ受ケスシテ醫タル行爲ヲ爲シタルトキハ醫師法第十一條ノ犯罪ハ直ニ成立シ必スシモ其行爲ヲ反覆スルヲ要セス又必スシモ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ爲スヲ要セサルモノトス

○鍼灸術ハ醫師ト同シク疾病治療ヲ目的トスルモノナリト雖モ其術タル鍼砭又ハ灼灸ノ方法以外ニ出ツヘカラス故ニ外科的手術ヲ施シ若クハ

藥劑ヲ用ウルカ如キハ醫術ノ範圍ヲ犯シ純然タル醫師ノ行爲ニ外ナラス

○醫師法第七條ニハ醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス其技能療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ストアルヲ以テ苟モ新聞社員ヲシテ右所定ノ事項ヲ新聞紙上ニ告白セシメタル以上ハ其告白カ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ爲スト否ト又其掲載ノ費用ヲ負擔スルト否トヲ問ハス醫師法第十一條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

賣藥規則

○賣藥規則第二十條ニ所謂無鑑札ニテ自ラ行商スル者トハ賣藥營業者又ハ請賣者自身ナルト否トヲ問ハス行商鑑札ヲ所持セスシテ現ニ自ラ賣藥ヲ行商スル者ヲ汎稱スルモノトス

藥品營業並藥品取扱規則

○日本藥局方ニ列記セルモノハ總テ藥品トシテ取扱フヘキモノトス從テ精製綿及ヒ精製ガーゼハ一種ノ藥品タルコト疑ヲ容レズ

四	元	四五	四五
一八三	二六八	一四九	三八一

外移民等ヨリ金錢其他一切ノ物品ヲ受取ルコトヲ得サルノ旨趣ニシテ其受取リタル金錢カ自己ノ爲メニスルモノナルト會社ノ爲メニスルモノナルト將タ事實當該移民ノ爲メニ使用セララルルモノナルト否トハ固ヨリ之ヲ問フノ要ナキモノトス

○移民保護法違犯罪ニ於ケル法益ハ移民者各人ノ財產權其モノニ非スシテ行政法規ニ依リ維持セントスル風紀夫レ自體ニ外ナラサレハ縱令移民取扱人カ移民者各人ヨリ數次ニ金圓ノ交付ヲ受クルモ苟モ繼續ノ意思ニ基クモノナル以上ハ該行爲ハ直ニ刑法第五十五條ヲ適用シ之ヲ一罪トシテ處分スヘキモノトス

醫師法

○苟モ自己ノ常業ト爲スノ目的ヲ以テ免許ヲ受ケスシテ醫タル行爲ヲ爲シタルトキハ醫師法第十一條ノ犯罪ハ直ニ成立シ必スシモ其行爲ヲ反覆スルヲ要セス又必スシモ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ爲スヲ要セサルモノトス

○鍼灸術ハ醫師ト同シク疾病治療ヲ目的トスルモノナリト雖モ其術タル鍼砭又ハ灼灸ノ方法以外ニ出ツヘカラス故ニ外科的手術ヲ施シ若クハ

藥劑ヲ用ウルカ如キハ醫術ノ範圍ヲ犯シ純然タル醫師ノ行爲ニ外ナラス

○醫師法第七條ニハ醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス其技能療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ストアルヲ以テ苟モ新聞社員ヲシテ右所定ノ事項ヲ新聞紙上ニ告白セシメタル以上ハ其告白カ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ爲スト否ト又其掲載ノ費用ヲ負擔スルト否トヲ問ハス醫師法第十一條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

賣藥規則

○賣藥規則第二十條ニ所謂無鑑札ニテ自ラ行商スル者トハ賣藥營業者又ハ請賣者自身ナルト否トヲ問ハス行商鑑札ヲ所持セスシテ現ニ自ラ賣藥ヲ行商スル者ヲ汎稱スルモノトス

藥品營業並藥品取扱規則

○日本藥局方ニ列記セルモノハ總テ藥品トシテ取扱フヘキモノトス從テ精製綿及ヒ精製ガーゼハ一種ノ藥品タルコト疑ヲ容レズ

四	元	四五	四五
一八三	二六八	一四九	三八一

商標法

○石油罐ノ口金ハ商標法施行細則第二十條第七類ニ屬スル商品ノ一種ナルヲ以テ之ニ使用スル爲メ商標ノ登録ヲ受ケタル者アル場合ニ於テ其情ヲ知り之ト同一若クハ類似ノ商標ヲ使用シタル石油罐ヲ販賣シタルトキハ商標法第二十三條第六號ノ罪ヲ構成ス

○他人ノ登録商標ヲ附シタル容器ヲ同一商品ニ使用シ其商品ヲ販賣シタル場合ニ於テハ商標法第二十三條第一項第一號ノ一罪ヲ構成スルニ過キス

○商標法第二十三條第一項第一號ノ處罰規定ハ買主ニ於テ其商品カ他人ノ登録商標ヲ附シタル容器ナルコトヲ知りテ之ヲ注文シ賣主カ其注文ニ從ヒ販賣シタルカ如キ場合ヲ除外シタル旨趣ヲ示シタル廉ナキヲ以テ此等ノ場合ニ於テモ仍ホ之ヲ適用スヘキモノトス

○商標法第二十三條第六號ニ該當スル行爲ニ對シ同條第五號ヲ適用スルモ此等ノ規定ハ何レモ同一法條中ニ存スルノミナラス各其刑同一ナルヲ以テ擬律上失當ノ廉アリトスルモ之ヲ以テ破毀ノ原由ト爲スニ足ラス

四 四 四 四
一〇八三 一〇八三 七二七 三

取引所法

○取引所法第二十五條ニ違背スル賣買取引ハ元來公ノ秩序ニ違反スル事項ヲ目的トスルモノナルヲ以テ無効ナリ從テ同罪ノ成立ニハ其賣買取引カ形式上存在スルヲ以テ足り必スシモ當事者間ニ於テ有效ニ成立スルコトヲ要セサルモノトス

○米穀取引所仲買人カ賣手買手ノ委託ニ依リ取引所外ニ於テ自ラ賣手買手雙方ノ爲メ取引所ノ定期取引ト同一方法ヲ以テ賣買取引ヲ實行シタル場合ニ於テハ縱令其賣買取引ハ民法上其效ナキモ取引所法第二十五條ニ所謂賣買取引ヲ爲シタルモノニ外ナラス

取引所稅法

○取引所稅法ニ於テ其違法行爲ニ對スル刑罰ハ取引所理事長ニ對シ之ヲ適用スヘキコトヲ規定シタルモノノ如キハ明治三十三年法律第五十二號ノ特例ニ屬スルモノナルヲ以テ右稅法第七條ノ犯法行爲アリタル場合ニ於テハ取引所理事長ニ對シ右法條所定ノ刑罰ヲ科スヘキモノトス

四 元 四
一八五三 二四六 二二二

森林法

○森林法第八十四條ニ定メタル各號ノ所爲ハ孰レモ加重情狀アル森林竊盜ノ態容タルニ過キスシテ其異同ニ因リ別異ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非ス

四

二五〇

○森林竊盜ノ贓物タル林産物ヲ原料トシテ木炭ヲ製シ鑛業用ニ供シタル事實ニ付キ森林法第八十四條第二號ト共ニ同第三號ヲ適用セル判決ハ失當ナレトモ既ニ同條ヲ適用シタル以上ハ其第二號ニ該ルト爲スモ第三號ニ該ルト爲スモ將タ又第二號及ヒ第三號ニ該ルモノトスルモ科刑ニ影響ヲ及ホスコトナケレハ擬律ノ錯誤ヲ以テ論スヘカラス

四

二五〇

肥料取締法

○肥料營業者カ虚偽ノ保證票ヲ添附セル肥料ヲ情ヲ知テ他人ニ授ケタルトキハ肥料取締法第九條第五號ニ依リ之ヲ處罰スヘキモノトス而シテ讓受人カ該保證票ノ添附シアルコトヲ知りタルト否トハ讓渡人ノ處罰ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

四

六四

○肥料取締法第九條第五號ノ規定ハ肥料營業者ニシテ虚偽ノ保證票ヲ添附セル肥料ヲ輸入移入又ハ授受シタルトキハ其營業カ肥料ノ製造輸入移入又ハ賣買ニ在ルト否トヲ問ハス等シク之ヲ處罰スルノ旨趣ナリトス

四

六四

漁業法

○免許漁業ノ期間終了後該免許ニ係ル魚類ヲ漁獲シタル行爲ハ漁業法第五十八條第一項第二號ニ所謂免許漁業ノ制限トアルニ該當スルモノニ非スシテ同條第一號ニ免許ニ依ラス第四條ノ漁業ヲ爲シタル者トアルニ該當スルモノトス

四

二

○漁業法第三十六條ハ水産動植物ノ蕃殖保護ヲ目的トスルモノナルヲ以テ水産動植物ノ採捕ニ付テハ營利ノ目的ニ出テタルト否トヲ問ハス爆發物ノ使用ヲ一切禁シタルモノト云ハサルヲ得ス

四

三六一

○汽船「トロール」漁業ニ關シ漁業法第五十九條ヲ適用シ處罰スル場合ニ同條ニ依リ沒收スヘキ物ハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及ヒ漁具ニ限り漁船ハ之ヲ沒收スルコトヲ得サルモノトス

四

五五二

(同三三)

「トロール」漁業ニ於ケル「トロール」汽船ハ螺旋推進器ヲ用フルノ外更ニ他ノ漁船ト異ナル所

ナケレハ之ヲ以テ漁業法第五十九條ニ所謂漁具ナリト云フヲ得ス

漁業組合規則

(參照)

漁業組合ニ收入役ヲ置カサル場合ニ於テ如何ナル機關ヲ以テ收入役ニ屬スル職務ヲ行ハシムヘキヤニ付キ漁業組合規則中何等明定スル所ナシト雖モ同規則第十條ノ六ニ依リ當然組合規約中ニ存スヘキモノト解セサルヘカラス

鑛業法

○鑛業法第十一條ニ於ケル建物ニ關シ所有者ノ承諾ヲ受クヘキ旨ノ規定ハ鑛業法施行以前ヨリ繼續スル鑛區ニシテ當時ノ法律ニ依リ地主ノ特權ヲ拋棄シタル地域ニ係リ而モ其地上ノ建物カ地主ノ特權拋棄後建設セラレタル場合ニ於テハ之カ適用ナキモノトス

大阪府鍼灸術營業取締規則

○大阪府鍼灸術營業取締規則ハ鍼灸術營業者カ醫師ノ業體ニ屬スヘキ行爲ヲ爲スコトヲ禁シ之カ制裁ヲ規定シタルモノニシテ醫術ヲ常業トシテ行ヒタル者ヲ處罰スルノ旨趣ニ非ス

明治三十三年法律第五十二號

○取引所稅法ニ於テ其違法行爲ニ對スル刑罰ハ取引所理事長ニ對シ之ヲ適用スヘキコトヲ規定シタルモノノ如キハ明治三十三年法律第五十二號ノ特例ニ屬スルモノナルヲ以テ右稅法第七條ノ犯法行爲アリタル場合ニ於テハ取引所理事長ニ對シ右法條所定ノ刑罰ヲ科スヘキモノトス

明治四十年法律第三十一號

○明治四十年法律第三十一號第一條ニ國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツトアルハ現ニ收納又ハ仕拂ヲ爲ス際適用スヘキ計算法ヲ定ムルモノナルヲ以テ辨償ノ責任ヲ定ムルニ過キサル訴訟費用ノ言渡ヲ爲スニ當リ之ヲ適用スルヲ要セス

明治二十四年勅令第三號

○國ヲ代表スル官廳ノ長官カ所屬官吏中ヨリ國ヲ代表シテ訴訟ヲ爲ス者ヲ指定スル場合ニ於テハ其數ニ制限ナキヲ以テ二人若クハ其以上ヲ指定シ之ヲシテ訴訟行爲ヲ爲サシムルモ違法ニ非ス

明治三十三年法律第五十二號 明治四十年法律第三十一號
明治二十四年勅令第三號

7048

著 作 權 所 有

大 審 院



大正二年四月一日著作
大正二年六月十四日發行

東京市神田區錦町二丁目二番地

發行者 中央大學

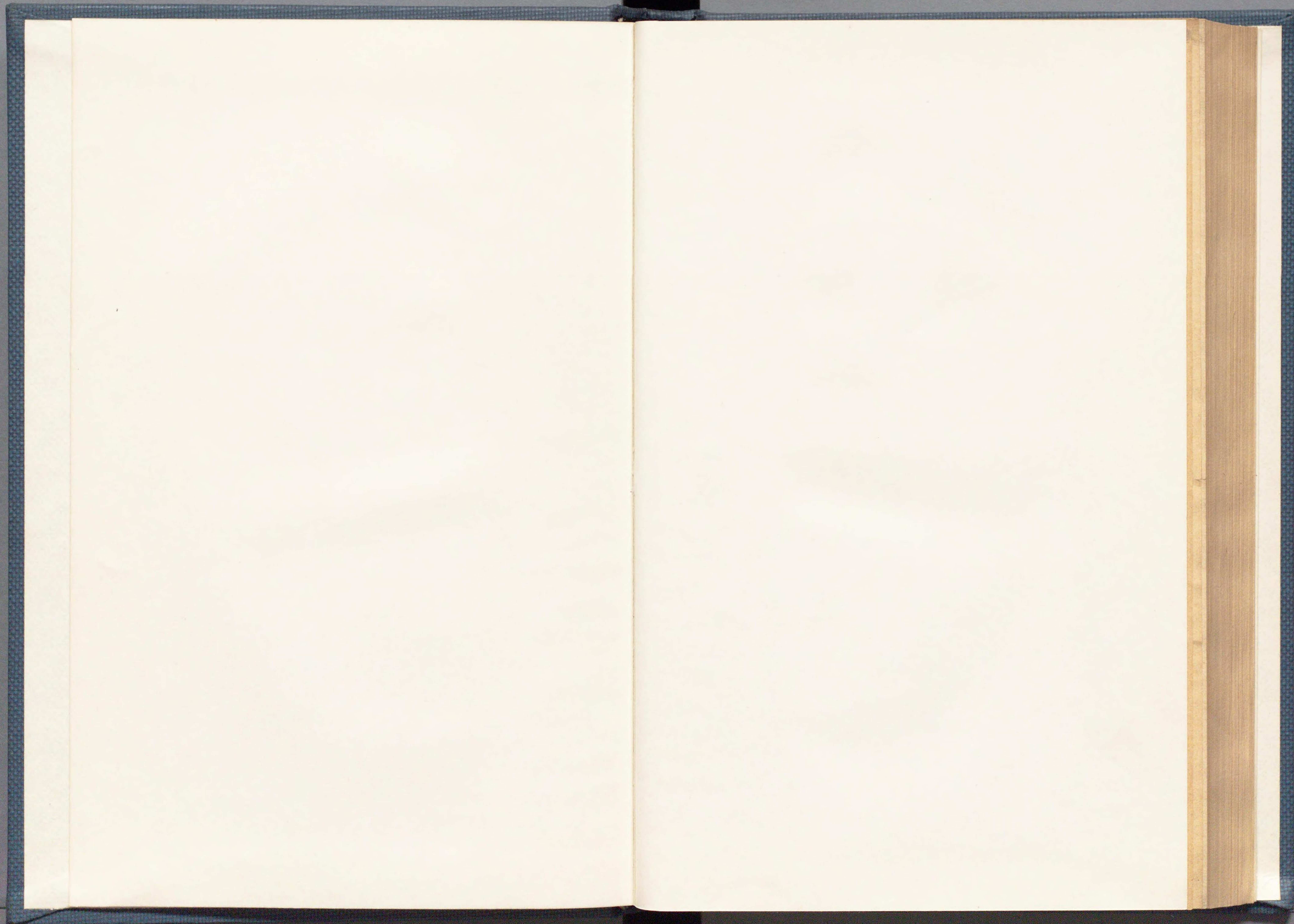
東京市小石川區原町十二番地

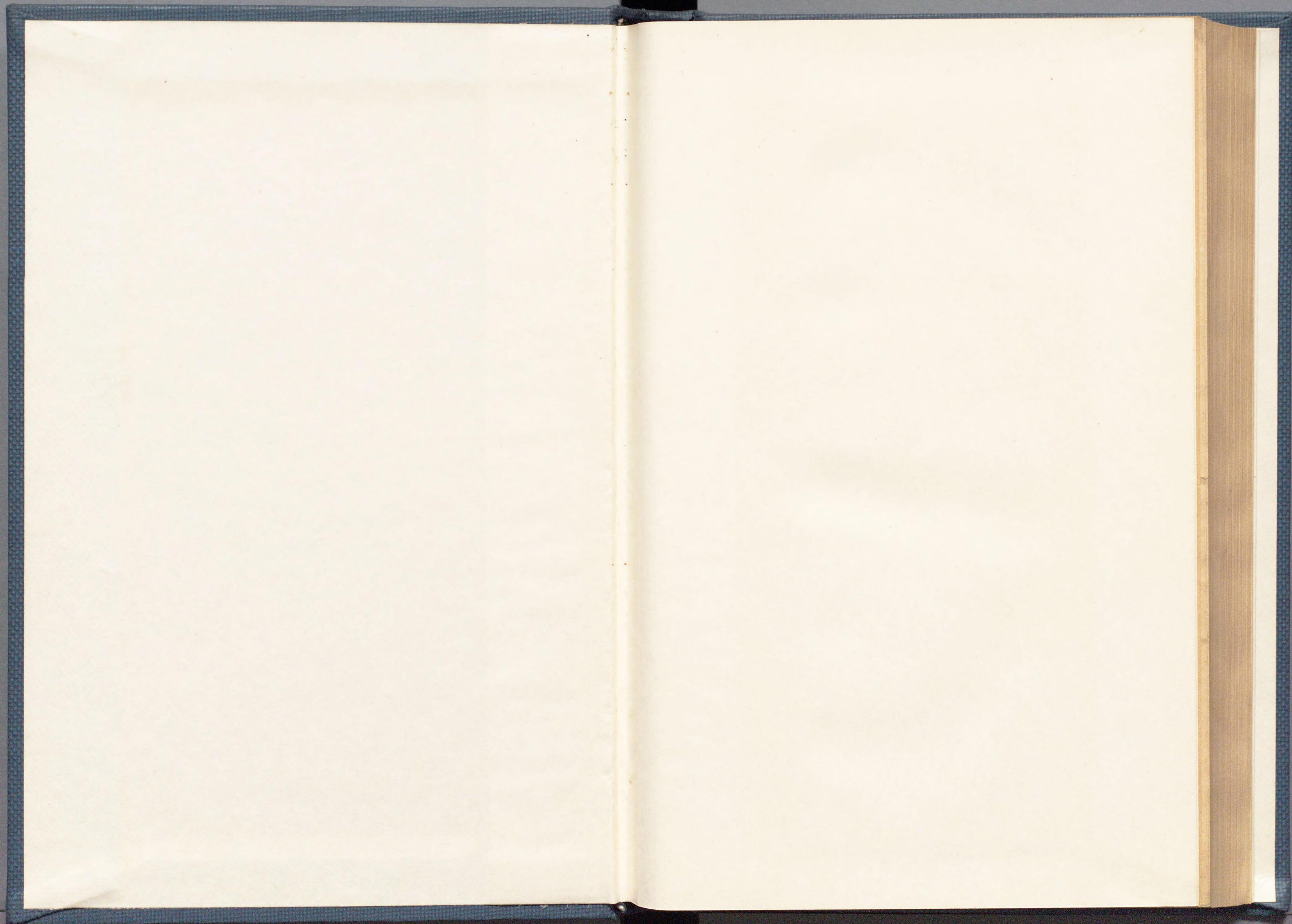
代表者 佐藤正之

東京市麴町區下六番町十七番地

大正二年六月十四日 印刷者 同勞舎 松澤 玨三

發行所





刊

7
8